

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成 31 (2019) 年 4 月 18 日 (木)

3 調査対象

小学校 第 4 学年、第 5 学年 (国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第 2 学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第 4 学年	国語	22 人	算数	22 人	理科	22 人
第 5 学年	国語	19 人	算数	19 人	理科	19 人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

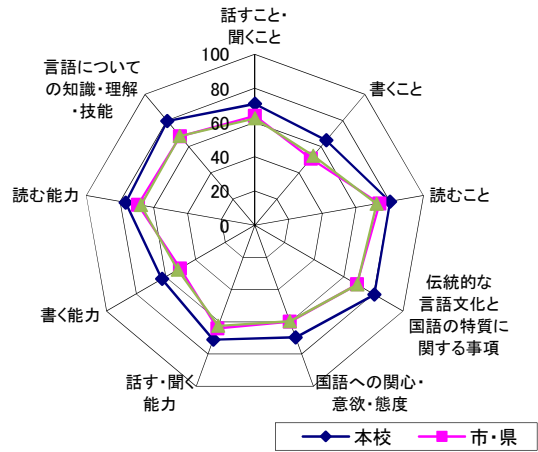
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市・県立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市・県と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市・県	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.0	64.0	62.5
	書くこと	64.9	50.9	53.1
	読むこと	80.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.6	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	69.6	59.9	59.7
	話す・聞く能力	71.0	64.0	62.5
	書く能力	62.6	50.4	52.0
	読む能力	76.7	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	79.6	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

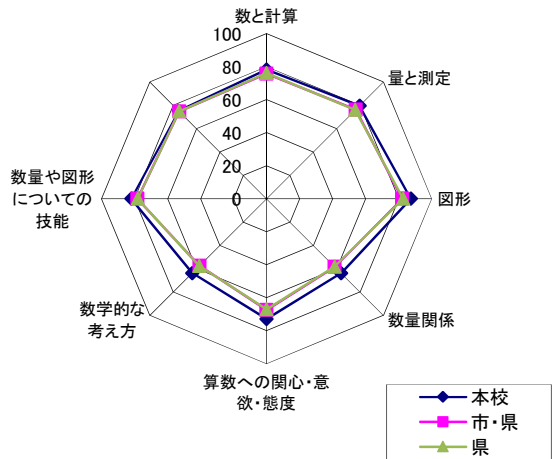
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市・県の平均より高い。 ○話題沿った意見とその理由を考えたり、インタビューの質問を考えたりして、記述する問題がよくできている。 ●話し方の工夫に注意して聞き取ることが、やや苦手である。インタビューの聞きたいことをもとにインタビューを考えることは、正答率の個人差が大きかった。	・聞きたい内容を整理し伝わるような工夫をができるように、インタビューの経験を積ませる。
書くこと	平均正答率は市・県の平均より大きく上回っている。 ○書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができている。 ●段落構成など条件に合わせて文章を書くことがやや苦手である。無回答の児童も一部いる。	・週末作文などで段落の構成を設定し、条件に合った文章を書く経験を積ませる。
読むこと	平均正答率は市・県の平均より高い。 ○物語文においても説明文においても、文章の内容を的確に読み取ることができる。 ●段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることがやや苦手である。	・段落や文章のまとまりに小見出しを付けることで、段落の役割を理解できるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○漢字の読み書きの問題はよくできている。 ●活用した動詞を辞書でひく問題については課題がみられる。	・漢字の指導を丁寧に行い、楽しみながら辞書をひくことに慣れ親しませる。

宇都宮市・県立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市・県と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市・県	県
領域等	数と計算	78.2	75.8	76.1
	量と測定	79.6	76.5	76.0
	図形	87.3	82.1	82.7
	数量関係	63.8	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	72.8	67.4	67.0
	数学的な考え方	63.7	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	75.2	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

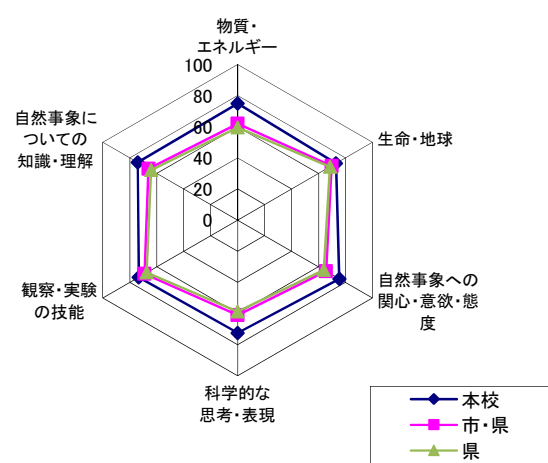
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市・県の平均よりやや高い。 ○九九や分数の計算がよくできている。朝の学習などで計算問題に取り組んだ成果がでていと考えられる。 ●少数のひき算に課題が残る。	・今後も基礎的な計算に繰り返し取り組みせ、落ち着いて計算する力を身に付けさせる。また、見直しをする習慣を身に付けさせる。 ・課題の場面を正しく理解できるように、図や数直線、半具体物等を活用した授業実践をする。
量と測定	平均正答率は市・県の平均とほぼ同じである。 ○ある時刻から、一定時間が経過する前の時刻を求める問題がよくできている。時計の図を書いて、考える指導をしてきた成果と考えられる。 ●資料から、必要な条件を読み取る力がやや弱い。	・図から必要な情報を選んで立式する力を身に付けるために、情報量の多い問題に意図的に提示し、必要な情報に印を付けて問題に取り組ませるようにする。
図形	平均正答率は市・県の平均より高い。 ○正三角形を作図する問題がよくできていた。個別指導でコンパスや三角定規を正確に使った成果であると考えられる。 ●球の性質を理解し、活用する問題がやや弱い。	・半径や直径の意味を正確にとらえさせ同様の問題に取り組ませる。また、図に必要な情報を書き込んで問題をとく習慣を身に付けさせる。
数量関係	平均正答率は市・県の平均より高い。 ○棒グラフを正確に読み取る問題は比較的できている。 ●表をもとにグラフが書けない理由を、具体的に説明することが苦手である。	・授業の中で、自分の考えを文章で書く機会を多く設け、わかりやすい説明の仕方を身に付けさせる。

宇都宮市・県立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市・県と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市・県	県
領域等	物質・エネルギー	74.9	61.9	59.4
	生命・地球	72.9	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	75.4	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	72.4	61.0	58.8
	観察・実験の技能	73.3	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	74.1	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市・県の平均より大きく上回っている。 ○実験の結果からわかる風の働きについて答える問題についてよくできた。また、日光を集めた部分の明るさや温度との関係について理解している。実験の結果から考察を書く指導を行ってきた成果と考えられる。 ●太陽と影の動きについて理解する問題が苦手である。	・実験の目的をきちんと把握し、正確に実験を行い、実験の結果から考察を書く指導を継続していく。また、キーワードなどを提示し、それらを使って整理する時間などを設けることで、知識の定着を図っていく。
生命・地球	平均正答率は市・県の平均より大きく上回っている。 ○昆虫の体のつくりについての正答率がかなり高い。昆虫の体を実際に粘土で作るなど具体物を使った指導の成果がみられた。 ●ハウセンカの育て方の問題において正答率が低かった。	・ICT機器を活用し、植物の成長の様子や世話の仕方を視覚的に理解できるようにする。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」や「家の人と学習について話をしている」の肯定割合は市・県の肯定割合よりも高く、家庭学習の充実がうかがえる。今後も家庭学習を推進していく。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定割合は、市・県の肯定割合よりも高いことから、学びに向かう意欲が高いと言える。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定割合は、市・県の肯定割合よりもやや高い。今後も、一人ひとりの理解をより深めていくために、授業の中で話し合い活動を意図的に設定する。

○●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合は、市・県の肯定割合を大きく上回っている。「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」での肯定割合も市・県の肯定割合を上回っているが、「どちらかといえば、いいえ」の割合も高い。全ての児童がめあてやまとめをきちんとノートにまとめられているか確認し、学習の振り返りを大切にすることで、学んだことをしっかり定着させる。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」や「自分の行動や発言に自信を持っている」の肯定割合は、市・県の肯定割合を下回っている。係活動や役割を与え、責任を果たせるよう個に応じた支援をしていく。また、できたこと、頑張ったことに対して担任、学級全体で称賛していく場をつくる。